

CSRに対する考え方

スローガン **みち、ひと・・・未来へ。**

安全・安心・快適な高速道路が結ぶ、人と人、地域と地域。

夢ひろがるアイデアと、心のこもったサービスで新しい出会いや喜びを生み出します。

NEXCO西日本は、100年先の未来に向け技術の革新と新たな価値の創造に挑み続けます。

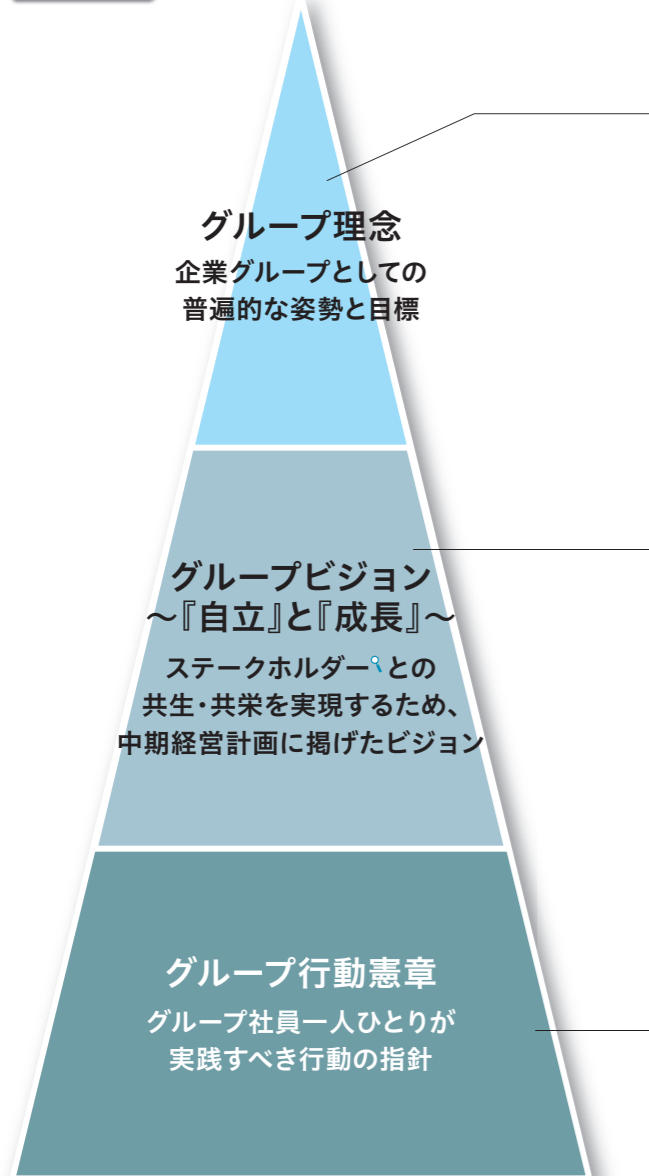
■3つの目指す姿

高速道路に変わらぬ安全と、
これまでにない感動を

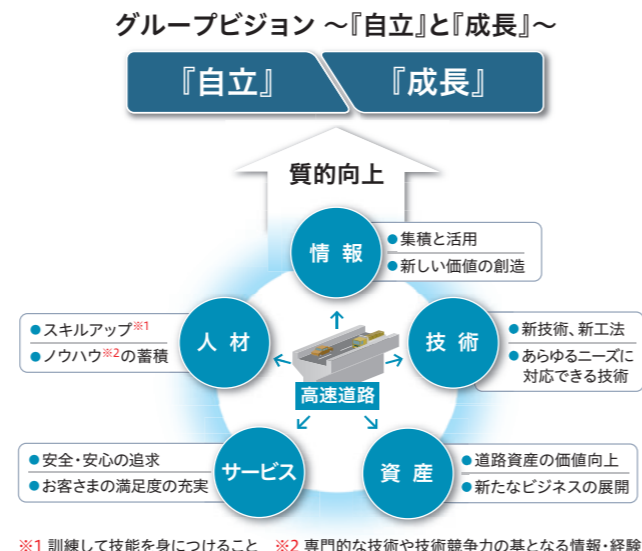
地域を愛し、
地域とともに生きる

たゆまぬ技術の革新で、
100年先の未来へ

理念体系



私たちはお客さまの満足度を高め、地域の発展に寄与し、社会に貢献する企業グループをめざします。
当グループは、高速道路の重要な社会インフラとしての使命を果たし、常に全ての活動において企業の社会的責任(CSR)の遂行を共通の目標とします。



- NEXCO西日本グループ行動憲章(総論) (2012年12月改訂)**
- 1 法令や社会のルールを遵守し、いかなる場合であっても、決してこれに反する行為は行いません。
 - 2 自由で活発な創造的企業活動を、公正を旨として行います。
 - 3 一人ひとりがグループにおける自らの役割と権限を自覚し、その責任を全うするため、全力を尽くします。
 - 4 企業活動における情報の重要性を踏まえて、情報の入手と活用及び適正な取り扱いを常に心がけて行動します。
 - 5 5つのステークホルダー(お客さま、社会、投資家及び国民の皆さま、グループの社員、お取引先)の信頼に応えます。

CSRの遂行を共通の目標とすることをグループ理念で宣言しています

私たちはグループ理念で、CSRの遂行を共通の目標とすることを宣言しています。人と地域、地域と社会を“つなぐ”ことで産業・経済の発展と国民の生活向上に貢献し、高速道路の重要な社会インフラとしての使命を果たすこと、さらにはグループのノウハウや資源を活かして社会の課題解決に取り組み、社会を持続的発展へとつなぐ媒体となること、これが国民の皆さまから高速道路を預かる企業としての私たちの存在意義であり責任と考えます。

こうした考え方を合言葉にしたのが、私たちのスローガン「みち、ひと・・・未来へ。」です。

中期経営計画2015のもとCSRの実践に取り組んでいます

NEXCO西日本グループは、2011年度から2015年度までの5か年を対象とした中期経営計画2015を策定しました。これは、いかなる厳しい環境・情勢下においても、社会に対してさらに大きく貢献する企業集団へと進化するため、グループ全体の取り組みの方向性を

示したものです。

環境・エネルギー意識の高まり、多発する異常気象、少子高齢化、顧客ニーズの多様化など、近年、当社グループを取り巻く経営環境は激しく変化しており、これらの社会的な課題に対する取り組みがいっそう強く求められています。また、高速道路の老朽化への対応をはじめ、ステークホルダーからの当社への期待も、大きく変わってきています。

中期経営計画2015は、こうした変化を踏まえ、グループ理念にあるCSRの遂行をいかに事業に融合し、実効性のあるものにするかを示したものとと言えます。高速道路という資産を最大限利用し、社会とのつながりを深め、信頼関係を築き、新たな価値を創っていくことが、当社グループが長期的・持続的に成長していくことにつながると考えています。

グループ理念を表すスローガンと経営ビジョンを具体化した中期経営計画2015の実現に向けて、すべての社員が行動憲章を共有しグループ一体となってCSRを実践していきます。

ウェブサイト「中期経営計画」:
<http://corp.w-nexco.co.jp/corporate/plan/>

グループビジョン『自立』と『成長』の考え方

自立	成長
<ul style="list-style-type: none"> ●グループが保有する技術・ノウハウを結集し、いかなる外部環境の変化にも対応することで、自ら積極的に地域社会と連携してより良い社会、より快適で安全な高速道路の実現に向けた取り組みを実践します。 ●グループ全体で集積した技術、知識及び経験を活用して、新たな価値の創造に挑戦することにより、どのような外部環境の変化でも成長につなげていく企業グループへと進化し、お客さまに満足を提供します。 	<ul style="list-style-type: none"> ●高速道路の建設・管理を着実にを行い、ハード・ソフト面の資産価値を向上させることにより、成長の源泉となる事業基盤を確立します。 ●高速道路を中心とした経営資産に当グループ独自の価値を付加することにより、長期的・持続的に成長する新たな高速道路へと変革します。

グループ戦略 “We create new value” Team西日本

当グループは一体となって、これまで培ってきた技術的な資産や経験を統括し、高速道路の価値の最大化と事業システムの高度化を実現します。

価値の最大化	事業システムの高度化
<p>国民資産である高速道路のネットワークバリューを増大させるために、高速道路を幅広く活用して、付加価値を創造します。</p> <p>更には、グループ全体が保有するスキル・ノウハウを高め、お客さまの満足度を最大限に向上させます。</p>	<p>徹底した業務の効率化のもと、企画から実施までグループ内で実証することで、技術品質及びお客さまの満足度を向上させます。</p> <p>グループ全体の各事業において連携強化を図り、常に業務の点検・改善を繰り返すことにより、事業システムの高度化を図り、道路事業のトップランナーとしての役割を果たします。</p>

CSRマネジメントと活動方針

対話や社外規範の活用を通じて
ステークホルダーの期待を経営に組み込み

NEXCO西日本グループでは、ステークホルダーから信頼される存在であるために、ステークホルダーとのコミュニケーションを大切に、そこで得られたご意見を経営に組み込み、事業活動に反映させていくことをCSR活動の方針としています。また、こうしたCSR活動の推進やコミュニケーションの実践にあたっては、CSRに関する社外規範を積極的に活用しています。

例えば、ISO26000では、バリューチェーン全体を見渡したうえで、重要な「課題」と「取り組み」をステークホルダーの参画を得ながら特定し、経営に組み込むことが求められています。そこで、幅広い分野からステークホルダーをお招きし、「NEXCO西日本グループのCSR活動にご意見をいただく会」を開催しています。いただいたご意見は、経営や事業の方向が社会からの期待・要請に沿っているかの検証に活かすとともに、地域と自社の将来を見越した業務改善につなげることを目指しています。

CSR活動に関する主な社外規範



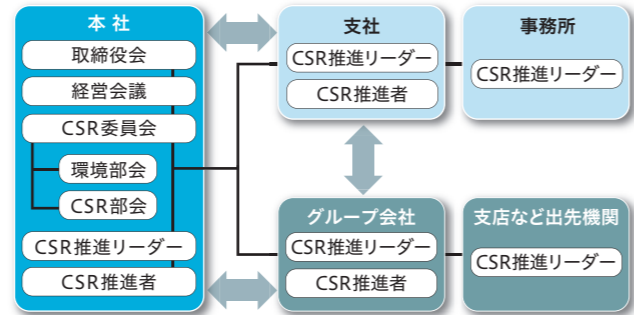
グループ全体で連携を強化して推進

当社グループでは、2008年9月に、すべての部門長が参加するCSR推進会議を本社に設け、グループ全体で

CSRの取り組みを推進していく体制を整えました。2010年度には、CSR推進会議に代えて、経営トップをメンバーとするCSR委員会を設置。その下にCSR部会と環境部会を設け、社会・環境の両側面から課題対応を推進できるよう体制を強化しました。

また、各組織にCSR推進リーダー、CSR推進者を配置することで、推進に向けた組織内の役割を明確にし、組織間の連携を強化しています。

CSR推進体制



CSR推進リーダー向けに講習会を実施

当社グループのCSR活動は、5年を経過したところですが、さらなるCSR活動の浸透を図るべく、2012年度には、関西、中国、四国、九州の各支社において、立命館大学大学院客員教授の池田耕一氏を招き、「いま求められるCSRとは」と題する当社グループのCSR推進リーダーを対象とした講演会を開催、約150人が参加しました。



国連グローバル・コンパクトの10原則⁹に対応したグループ行動憲章を策定しています。

NEXCO西日本グループは、経営トップの明確なコミットメントのもと、国連グローバル・コンパクト(以下、国連GC)4分野10原則を支持しています。また、国連GCの考え方を自らの行動に反映させることができるよう、グループの役員および社員が取るべき行動についての指針「NEXCO西日本グループ行動憲章」は、人権、労働、環境、腐敗防止の4分野に対応しています。

	国連グローバル・コンパクト	グループ行動憲章
人権	原則1 企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、	●第1章(総論) ●第5章(情報・資産) ●第6章(5つのステークホルダー) —人権、多様性、人格、個性の尊重
	原則2 自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。	
労働	原則3 企業は、組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、	●第1章(総論) ●第6章(5つのステークホルダー) —安心して働ける福利厚生、安全で衛生的な職場環境 —差別やハラスメントを許さない職場環境
	原則4 あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、	
	原則5 児童労働の実効的な廃止を支持し、	
	原則6 雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。	
環境	原則7 企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、	●第1章(総論) ●第6章(5つのステークホルダー) —環境負荷の低減 —生物多様性の保全
	原則8 環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、	
	原則9 環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。	
腐敗防止	原則10 企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。	●第1章(総論) ●第2章(法令遵守) ●第3章(自由・公正) —法令や社会ルールの遵守 ●第5章(情報・資産)

ステークホルダーを起点としたCSRマネジメント



より広い社会へ、未来への働きかけ



CSR活動方針

- 1 ステークホルダーとの対話を促進
経営の透明性を確保し説明責任を果たすとともに、ステークホルダーとの対話と交流を促進します。
- 2 期待を事業活動に組み込み
ステークホルダーの期待を事業活動のプロセスに組み込み、本業で企業としての責任を果たします。
- 3 社会の持続的発展に貢献
これまで培ったノウハウや資源を活かして、社会が抱える課題解決に取り組み、事業の創造と、社会の持続的発展に貢献します。

5つのステークホルダーへの約束(2011~2015)

<p>お客さま</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 時間、安全、信頼、出会い、安らぎ等の新たな価値を提案し提供します <p>対話の手段</p> <ul style="list-style-type: none"> ● お客さまセンター ● ハイウェイポスト(ご意見投書箱) ● CS推進オピニオンリーダー意見交換会 など 	(すべてのステークホルダーとの主な対話の手段) ● ウェブサイト ● コミュニケーションレポート ● ご意見をいただく会
<p>社会</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 共生社会の一員として、地域と積極的に連携します ● 環境を重視して自然との共生を図ります <p>対話の手段</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自治体との包括協力協定 ● 事業説明会(地域向け) ● 現場見学会 ● 出張授業 など 	
<p>投資家・国民の皆さま</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高速道路のネットワークバリューを創造し増大させます ● 幅広い外部との交流により高速道路の未来の可能性を追求します <p>対話の手段</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事業説明会(投資家向け) ● 個別投資家訪問 ● 事業評価監視委員会 など 	
<p>グループ社員</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自己と会社の持つ潜在能力やモチベーションを発揮する機会を提供します ● 高速道路の設計から保守に至る一貫した総合技術グループになります <p>対話の手段</p> <ul style="list-style-type: none"> ● キャリア相談窓口 ● 経営懇談会 ● 研修 など 	
<p>お取引先</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 互いを尊重し、透明で公正な関係を構築します ● 相互に協力してお客さまの満足度を高め、地域の発展に寄与し、社会に貢献します <p>対話の手段</p> <ul style="list-style-type: none"> ● エリア・パートナーズ倶楽部 など 	